

落語の笑いをめぐる日本語学習者の反応

Teaching Laughter to Learners of Japanese in a Rakugo Performance

森 真由美

Mayumi MORI

1. はじめに

大学などの高等教育機関での日本語教育において、落語を教材として使うことの効果は日本語だけでなく日本文化も同時に導入することが可能であるということである。日本語の導入という側面においては、落語DVDの視聴により、日常生活で使われる日本語の用語、慣用表現、敬語表現、文型などを、音声、身振り、使用状況とともに導入することができる。また、同時に、日本文化の導入という側面においては、落語DVDの視聴により、日本の慣例、行事、風俗などを導入することができる。もっとも落語DVDの視聴というと、上級学習者を対象とした授業を想定しがちであるが、教師が使用するDVDを上手に選べば、中級学習者も対象とすることができる（この点については、拙論¹⁾で考察した）。

さらに、落語教材の有効性を考えるにあたり、ここではその文化的側面に焦点をあてて、特に落語の持つ最大の特徴である笑いに注目し、教室活動において、学習者がその笑いをどのように理解し、教師はそれをどのように活かすことができるかを考察する。

2. 笑いに関する先行研究

2. 1 (ベルグソン1938) 笑いを誘うものの根拠には何があるか

(以下の引用文はベルグソン『笑い』第81刷2012岩波文庫より抜粋、ページ数はこれに準拠する。)

ベルグソン (1938) は、「おかしみというものは、おもにグループとなって集まっている人びとが、彼らの感性を沈黙させ、ただ彼らの理智のみを働かせてその全注意を彼らのうちの一人に向けてときに生まれるものである。」(2012:17) として、笑いを誘うものの根拠として、その場にいる人々の笑いの共感形成を指摘している。そして、「もしも劇が生活の拡大化と単純化であるというのがほんとうであるならば、我々の題目のこの特殊な点については、喜劇の方が現実生活よりも多くの教示を我々に供してくれるであろう。」(2012:67) として、喜劇の構成に注目し、笑いの起こる場面を分析している。

それによれば、そこには状況のおかしみと言葉のおかしみが存在する。

そして、状況のおかしみを構成する要素として、繰返し、ひっくり返し、取り違えを挙げている。ベルグソンいわく、繰返しとは「ここで問題になるのは、もはやさっきのように

¹⁾ 拙論 (2011) 「日本語教育における「落語」教材の有効性の検証 — 「時そば」の指導を中心にして —」 金城学院大学大学院修士論文

或る人物の繰返す一言ないし一句ではなくて、一つの情況、すなわちもろもろの事情の一つの組み合わせ」(2012:87)であり、ひっくり返しとは「一定の情況の中にある若干の人物を想像してみたまえ。その情況を裏表にし、かつ役割があべこべになるようにすれば、諸君は一つの喜劇的場面を得られるであろう。」(2012:90)と述べる。取り違えとは「取り違えというものは、事実、同時に二つの違った意味を現わす一つの情況である。その一つは単に可能なもの、演者がその情況に帰する意味であり、他はほんとうのもの、観衆がそれに与えるものである。我々はその情況のほんとうの意味に気がついている。我々に対してそのあらゆる面を示す配慮が払われているからである。けれども、演者たちはそれぞれそのうちの一つしか知らない。そこからして彼らの勘違いが生じ、そこからして彼らの周囲でなされることや同じくまた彼ら自身がなすことに対して向けられる間違った判断が生ずるのである。我々はその間違った判断から真実の判断へと進む。我々は可能の意味と真実の意味との間をゆれ動く。そして我々の精神のこの二つの相反する解釈の間の往ったり来たりが取り違えの我々に与えてくれる面白味の中で真っ先に現れるもの」(2012:93)と説明している。

言葉のおかしみについては、言葉が言い表わすおかしみと言葉が創造するおかしみに区別して、「第一の方は習俗、文学、そしてとりわけ観念連合を異にする一つの新しい社会に移行する場合に、その際立ったところの大部分を失うということはあっても、どうしても必要とあればとにかく一つの国語から他の国語に翻訳することができるものだ。けれども、第二の方は概して翻訳し難いものである。それは文句の構造あるいは語の選択にその全存在を負っている。」(2012:98--99)と説明して

いる。

2. 2 (大島2006) 文化コンテクストによって異なるユーモアの種類

大島(2006)では、いくつかの国を文化コンテクストに分類して、そこで必要とされるユーモアの種別を考察している。その中では、「高コンテクスト (high context) は共有する情報が多く人々の同質性が高い状態を指し、低コンテクスト (low context) はその逆、つまり共有する情報が少なく個人個人がバラバラの思想や文化的背景を持っている状態を指す」(2006:40)と指摘し、日本については「人口の九八%が日本人であるという偏りのある日本文化は同質性が高く、高コンテクスト社会」(2006:40)であるとする。そして、同質性が低く、それほど多くの知識を共有していない低コンテクスト文化圏では、ユーモアが普遍的になるとし、「誰にでもわかる、ほとんどの文化・社会圏で当然と考えられている人間の本質に近いものがユーモアの基礎となる調和部分となり、それから逸脱することによって、低コンテクスト社会のメンバーが理解できるユーモアが作り出されている。この場合の調和部分とは、より人間社会全般に普遍的な、性に関するもの、愚かさ、ずるさやケチに関する知識と情報などが挙げられる」(2006:41--42)と述べている。そして、落語の笑いの特徴として、「古典落語には、どこの誰にでも理解できるような普遍的なユーモアを持ったものが多く、」(2006:185)と述べている。そして、落語はさまざまな文化背景を持った世界の人々をも笑わせることが可能」(2006:185)であると主張している。

2. 3 (Deneire 1995) 'Humor and foreign language teaching'

Deneire (1995:286)

As we try to look at a possible integration of humor with methodology, some important questions arise; (1) Which kinds of humor can be used in the foreign language classroom? (2) When and how should humor be used in the teaching sequence?

Deneire (1995) では、外国語の授業の中に笑いを取り入れることについて、(1) 外国語の授業でどの種の笑いが使われうるか、(2) 笑いを授業のどの時期に使うべきかの2点について考察している。

Deneire (1995:287)

Sexual humor is quite naturally excluded from the classroom for both psychological and social reasons.

Deneire (1995:288)

Interethnic jokes should thus be excluded from the Foreign Language classroom as they may lead to the formation of stereotypes and seriously undermine teachers' attempts to develop intercultural understanding.

Political humor can be rejected for similar reasons.

Deneire (1995:288)

Finally, some jokes will be rejected within certain cultures because of their cultural inappropriateness.

その中では、笑いを取り入れた授業は上級者向きであることを強調しながら、(1) の結論として、教室において避けるべき笑いは性に関するもの (Sexual humor)、民族に関するもの (Ethnic jokes)、政治に関するもの (Political humor) であるとしている。その理由として、性的な笑いが教室内で不適當であることはいうまでもなく、民族的な笑いや政

治的な笑いを教室活動で使うことで、ある民族についてのステレオタイプを作り出したり、学習者の異文化理解を促進しようとする教師の試みをダメにすると論じている。

Deneire (1995:294)

Thus, the necessary linguistic and cultural information needs to be introduced before a joke is presented to the students. Conversely, humor should never be used as technique to acquire new linguistic and world knowledge, but rather as an illustration and reinforcement of acquired (if not assimilated) knowledge. If this sequence is respected, humor will indeed both contribute to a relaxed atmosphere and facilitate retention.

(2) の結論として、笑いは新しいことばや知識を導入する時には使うべきではなく、すでに導入したものがまだ身につけていない時の説明と強化を目的に使うべきであり、そして、もしこの導入の手順を守れば、笑いはリラックスした雰囲気をつくり、教えられた知識を記憶に残す手助けとなると結論づけている。(拙訳 なお、上記英文中の humor, joke については、この論文中にその定義の違いが示されていないため、ここではどちらも笑いと日本語訳した。)

3. 教室活動

3. 1 活動の目的

笑いとは、落語の持つ特徴的要素である。その笑いには一般性²⁾と個別性がある。笑いの一般性とは、例えば、チャップリンの無声映画を見た鑑賞者がその人種に関係なく笑うような笑いであり、そこには普遍的な人間の

²⁾ 大島 (2006) はこれを普遍性という言葉で説明しているが、筆者は同じことを表していると解釈している。

共感がある。一方で、ある一つの文化に属する人が、自文化にない事柄で他文化を笑うという笑いの個別性というものが存在する。また、笑いの個別性の中には同じ言語を持つ人しか通じない言葉による笑いというものも存在し、これはベルグソン (2012:98--99) のいう「言葉が創造するおかしみ」である。その顕著な例は、地口 (しゃれ, ごろ合わせ) である。こういった言葉による笑いは使用言語により異なり翻訳不可能なので、それを理解するにはことばの説明を要するか、または対象言語について多くの語彙を習得している上級学習者に限られる。

日本語教育の現場で、落語教材を使用し笑いをともなった効果的な教室活動を目指すならば、日本文化の中の落語の笑いというものを学習者に提供しなければならないと考えた。その方法を模索することの手始めに、日本語学習者は落語の何を、またどこで笑うのかを観察することを今回の活動の目的とする。

3. 2 落語DVDの選択

3. 2. 1 落語DVD選択の条件

落語を聞く時、聞き手は「そろそろ笑いが来そうだ」という予測を立てながら聞いている。(もともと、落語を聞くという行為自体が聞く前から笑うことを期待しているのではあるが。) 笑いの予測とは、いつ立てられるのであろうか。落語家の表情、しぐさ、音声か? 笑いを起こす談話構造とはどのようなものか? という視点で、本稿「2. 笑いに関する先行研究」を参考にして、今回の教室活動で使用する落語DVDを選択した。その選択の際には、今回の教室活動では中級クラスの学習者が対象のため、その習得語彙数を考えて、個別性の笑いのうちで言葉による笑い、つまり地口 (しゃれ, ごろ合わせ) でオチとなる

話は避けて、一般性の笑いがオチとなる話を対象とした。そのうえで、以下の5点を選択の条件とした。

- ① 使用する落語DVDに性的な表現などが含まれないもの
- ② 音声の速さや鮮明さの点で聞き取りやすいと判断したもの
- ③ 東京方言がそれほど強くないと判断したもの
- ④ 学習者の集中力が維持しやすいように20分以内程度になっているもの
- ⑤ ベルグソンの笑いの分析をもとに、それに適応する談話構造を持つもの

3. 2. 2 ベルグソンの笑いの分析と落語の談話構造からのDVD選択

教室活動で使用する落語DVDの選択にあたり、上記3. 2. 1の①~④の条件に適応するものとしていくつかのDVDに見当をつけたのであるが、さらに⑤の条件で分析を試みた。本稿2. 1 (ベルグソン1938) の笑いの法則、特に一般性の笑いの1つである「繰返しによる笑い」に焦点をあてて、落語の中に見られる談話構造を考察し、次の3つのタイプに分類した。なお、ベルグソンの分析する喜劇中の言葉の滑稽な繰返しから生じる笑いは、大団円に向かうまでに観客との笑いの共感を高める効果を持つと考えられ、それは落語においては、落語家の言うクスグリの効果であり、オチに向かうまでに聞き手との笑いの共感形成を高める場で生じる笑いであると考えられる。

タイプ1~ [質問文 + 質問内容にかみ合わない答え] の繰返し

タイプ2~ [質問文 + 予想内 or 予想外の答え] の繰返し

タイプ3~フレーズの繰返し

タイプ1は談話構造が [質問文+質問内容にかみ合わない答え] の繰返しであり、これはベルグソンの分析例に挙げられた「タルチュフ」の中のオルゴンとドリーヌの会話の構造に相当する。以下にその箇所を引用する。

ベルグソン (2012:72--73)

言葉の滑稽な繰返しの中には、一般に二つの項が相対峙している。ばねのように弛緩する圧搾せられた一つの感情と、その感情を新たに圧搾することに興がる一つの観念と。ドリーヌがオルゴンに向って彼の妻の病気のことを話すとき、そしてこの男がひっきりなしにタルチュフの健康のことを聞きだそうとして、彼女の言葉を遮るとき、常に出てくる《それでタルチュフは》という問は、我々に跳ね出るばねの極めて鮮やかな感じを与える。ドリーヌはエルミールの病気の話をその都度持ち出しては、そのばねを押し返すことに興がっているのである。

(傍点は原文のまま)

以下は上記の記述に登場する「タルチュフ」の一場面である。

モリエール 「タルチュフ」³⁾

ドリーヌ 奥様は一昨日、夕方まで熱がおありでした。わけのわからぬ頭痛で……

オルゴン で、タルチュフは？

ドリーヌ タルチュフ？ すごくお元気で。まるまると、あぶらぎって、顔色もよく、くちびるはまっ赤で。

オルゴン そうかい、そうかい！

ドリーヌ 夕方、奥さまはひどく胸がむかついて、お食事にはなにも手をおつけになりませんでした。それほど頭痛がひどかったんで！

オルゴン で、タルチュフは？

ドリーヌ 奥さまを前に置いて、ひとりで夕食を召しあがり、いかにも信心ぶかそうに、しゃこを二羽と、羊の股肉を挽いたのを半分、平らげて……

オルゴン そうかい、そうかい！

ドリーヌ 奥さまは、ひと晩じゅう、まんじりともなさいませんでした。お熱で、おやすみになれないんで、明けがたまで看病して差しあげ……

オルゴン で、タルチュフは？

ドリーヌ 気持ちよさそうにうとうとして、食卓を離れるとすぐ部屋に引き取って、暖いベッドにもぐりこみ、朝までぐっすりおやすみになりました。

オルゴン そうかい、そうかい！

ドリーヌ とうとう、わたくしたちの言うことをきいて、奥さまは悪い血をとってもらった決心をなさいました。それですぐお楽になって……

オルゴン で、タルチュフは？

ドリーヌ もうすっかり元気を取り戻し、どんな苦しみにも堪えぬ決意を固め、奥さまがなくされた血の埋め合わせにと、朝御飯にはぶどう酒を大きなコップに四杯お飲みになりました。

オルゴン そうかい、そうかい！

(傍点は原文のまま)

³⁾ 『モリエール全集2』 (1973) 196--197 中央公論社

タイプ1に相当すると思われる落語の例としては「出来心」が挙げられる。落語「出来心」では、貧乏長屋に住む八五郎の家に泥棒が入ったが、貧乏ゆえに何も取られるものなし、しかし、八五郎は家財道具などを盗まれたというそを理由に家賃を踏み倒そうとする。その時の差配さん（長屋の管理人）と八五郎のやりとりに繰返しが多用される。もっとも、「タルチュフ」の場合は、タルチュフの様子を尋ねるオルゴンの質問文が繰返され、一方の「出来心」では八五郎の応答文に繰返しが見られるので、談話構造が合致するとは言いがたく、タイプ1の変形ともいえる。

「出来心」⁴⁾

差配 真似をしなくてもいい……裏はなんだ？

八五郎 裏は行きどまり

差配 この路地のをきいてるんじゃないえ。布団の裏だよ。

八五郎 差配さんとこのは？

差配 うちのは、丈夫であったか、寝冷えをしねえように、花色木綿だ。

八五郎 ええ、あっしとこも、丈夫であったか寝冷えをしねえとこで花色木綿……

差配 何をばかなことを言っている

八五郎 裏は花色木綿

差配 おいおい、羽二重の裏へ花色木綿てえのはおかしいな……あとは？

八五郎 あとは、はだかの帯

差配 なんだ、そのはだかの帯てのは？博多か？ほう、いいものを持ってたなあ、博多の帯だな？

どんなんだ？

八五郎 ええ、表が唐草模様で、裏が花色木綿

差配 なんだと……唐草の帯なんてあるか、帯に裏なんかあるもんか。帯芯にでも使ったんだろう

八五郎 そうなんで……芯は花色木綿

差配 あと帯は？

このあとの会話には、半纏、蚊帳、刀、筆筒など、盗られたものすべてを「花色木綿」と答える八五郎の発話が続く。

タイプ2は[質問文+予想内 or 予想外の答え]の繰返しという談話構造を持っているものである。これに相当すると思われる落語の例として、「平林」「饅頭こわい」「時そば」「ちりとてちん」の4つを提示する。「平林」の談話構造は[質問文+予想外の答え]が登場人物ごとに繰返され、「饅頭こわい」は[質問文+予想内 or 予想外の答え]が登場人物ごとに繰返される。このように、1つの状況が登場人物ごとに繰返される構造を、ここでは列挙型とする。「時そば」「ちりとてちん」の談話構造では、話の前半の会話のやりとりは[質問文+予想内の答え]、後半では登場人物を変えてその会話のやりとりが同じように繰返されるが、ここでは[質問文+予想外の答え]という構造となっていて、その反応の違い（予想外の答え）が笑いを誘う構造になっている。つまり、場面設定の繰返しが状況の対比として提示されている。これをここでは対比型と名付けた。そして、筆者はこれをベルグソンのいうひっくり返し（本稿2.1参照）と解釈するものである。

以下は、参考までに、ここで分析を試みた落語のあらすじである。

⁴⁾ 『落語百選 夏』（2008）28-31 ちくま文庫

「平林」のあらすじ

奉公人の定吉が店の主人に、平林さんの家に主人からの手紙を届けるようにと頼まれた。しかし定吉は無筆のため、宛名の「平林」が読めない。そこで、道中出会う人たちに「平林」の読み方を尋ねながら歩く（ここに列挙型繰返しの談話構造が見られる）。すると、出会う人それぞれ違う読み方を定吉に教えるという話。

「饅頭こわい」のあらすじ

話の前半部では、町内のおかみさんたちが集まって、みんなで「こわいもの」についておしゃべりをしている（ここに列挙型繰返しの談話構造が見られる）。すると、そこへやって来たお熊さん、みんながこわいものは蛇だ、蟻だといっている中で、お熊さんは「饅頭がこわい」と言った。後半部では、いつも強がっているお熊さんをこらしめようと、みんなでたくさんのお饅頭を用意してお熊さんに差し出す。さて、お熊さんは、怖がるふりをしながら大喜びで饅頭を平らげる。あっけにとられたおかみさんの1人がお熊さんに「ほんとうは何がこわい？」と尋ねると、お熊さんの答えは「今度は熱いお茶がこわい」とオチる話。

「時そば」のあらすじ

話の前半部では、男Aが屋台のそば屋に対してお世辞を使い、そばの勘定を上手にごまかし1文得をした。後半部では、その様子を見ていた男Bが自分も同じ手口で得をしようと、翌晩にそば屋を相手に会話も男Aと同じように進めようとするが、うまくいかず、またそばの支払いも失敗、得するどころか損をしてしまう（ここに対比型繰返しの談話構造が見られる）という話。

「ちりとてちん」のあらすじ

話の前半部では、ご隠居の家で、お世辞の上手な金さんにご隠居がごちそうをたべる。後半部では、また同じように今度はご隠居と知ったかぶりの六さんが食事をする。ご隠居の会話の進め方は両者に対して同じであるが、その反応は両者で異なる（ここに対比型繰返しの談話構造が見られる）。さらにご隠居は知ったかぶりの六さんに対して、珍味「ちりとてちん」として腐った豆腐を出す。それを食べた六さんにご隠居が「どんな味？」と尋ねると、六さんの答えは「ちょうど豆腐の腐ったような味」とオチる話。

タイプ3は「フレーズの繰返し」の談話構造をもっているもので、落語の例として「寿限無」が挙げられる。この話の中では、あのおなじみのフレーズ「じゅげむ、じゅげむ、ごこうのすりきれ、かいじゃりすいぎよのすいぎょうまつ、うんらいまつ、ふうらいまつ……」が何度も繰り返される。

これらの落語の中から上記3. 2. 1の①～⑤に適応し、その中でも談話構造が対比型として際立っており、また、会話の繰返しが多くあり、質問表現とその答えが一般性の笑いを誘う内容のオチとなっているという理由から、「時そば」（所要時間12分10秒⁵⁾と「ちりとてちん」（所要時間18分10秒⁶⁾を選択した。

なお、本稿2. 3 (Deneire 1995)において、教室活動で取り入れるべきではない笑いの種類として、民族的なものというのがある。落語が日本文化を色濃く伝えるものであるとい

⁵⁾ 落語DVD「落語をもっとたのしもう 下巻」NHK PCBE-51650

⁶⁾ 落語DVD「落語がいっぱい その三」TDK TDBT-0064

う性格上、落語の笑いがそれにあたるかどうかという点が問題になるが、「落語のユーモアは普遍性が高いのであ」(大島2006)り、また、その中では市井の人々を登場人物とした小さな共同体での話が展開されるので、特に民族性を強調するようなものではなく、日本人に対するステレオタイプを導入することにはならないことを付け加えておきたい。

3. 3 教室活動の概要

中級レベルの学習者を対象に落語の笑いの場所を観察することを目的にして、教室活動を試みた。

日時は、2013年10月21日、28日、11月4日の2限目で、計210分の活動であった(10/21は30分、10/28、11/4は90分)。対象者は、当大学の中級クラスで日本語を学習している留学生6名で、その内訳はフランス人5名(自国の大学で日本語学科に在籍、日本での留学期間2カ月)、タイ人1名(自国の大学で日本語学科に在籍、日本での留学期間8カ月)である。活動前のアンケートでは、日本留学前に落語を知っていた学生は1人で、残りの5人は知らなかったということであった。知っていたと答えた学生は、自国にてインターネットで見た映画の中の登場人物が落語家であったと回答した。

3. 4 教室活動の進め方

3. 4. 1 第1日(10/21)

- ① 日本の文化に関するアンケート配布・記入・回収
- ② この活動の目的を学習者に伝える
- ③ 落語の歴史・基礎知識をプリントで説明
- ④ 次回の「時そば」DVD視聴にそなえ、「時そば」のあらすじ、DVD中で使われる用語、表現、文型など一覧表を配布し、目を通してくることを指示

3. 4. 2 第2日(10/28)

- ① 「時そば」のあらすじや江戸時代の数の数え方など、鑑賞に必要な知識の導入
- ② 「時そば」用語、表現、文型など一覧表の解説、わからないことは質問を受ける
- ③ 「時そば」DVD(1回目)鑑賞(所要時間12分10秒)
- ④ 教師は、「学習者はDVD鑑賞の間にどの場所で笑ったか」を観察し、スクリプトに笑いの生じた場所をチェックする
- ⑤ 教師は、DVD(2回目)を見せながら、学習者の笑いが生じた場所で止めて、笑った理由を質問する
- ⑥ 鑑賞後に、「時そば」の解説、「時そば」スクリプト配布
- ⑦ 次回の「ちりとてちん」DVD視聴に備え、「ちりとてちん」のあらすじ、DVD中で使われる用語、表現、文型など一覧表を配布し、目を通してくることを指示

3. 4. 3 第3日(11/4)

- ① 「ちりとてちん」のあらすじや登場人物の説明など、鑑賞に必要な知識の導入
- ② 「ちりとてちん」用語、表現、文型など一覧表の解説、わからないことは質問を受ける。
- ③ 「ちりとてちん」DVD(1回目)鑑賞(所要時間18分10秒)
- ④ 教師は、「学習者はDVD鑑賞の間にどの場所で笑ったか」を観察し、スクリプトに笑いの生じた場所をチェックする。
- ⑤ 教師は、DVD(2回目)を見せながら、学習者の笑いが生じた場所で止めて、笑った理由を質問する
- ⑥ 鑑賞後に、「ちりとてちん」の解説、「ちりとてちん」スクリプト配布
- ⑦ 活動後のアンケート②配布、記入、回収

3. 5 フィードバック

3. 5. 1 学習者の笑いが生じた場面の分析 — 「時そば」の場合

DVD視聴中に学習者の笑いが生じた場面は

16か所であった。以下の表1は、笑いが生じた場面(16か所)での笑いの理由をインタビューして記したものである。

表1 「時そば」視聴で笑いの生じた場面と学習者の笑いの理由

(表中の番号①~⑯は、話の進行に沿って時間軸でつけた。)

	笑いの生じた場面	学習者インタビュー
前半・男A	①男Aがそばを食べるシーン	しぐさがおもしろい
	②男Aがそばを食べるシーン	そばを食べる音
	③男Aがそばを食べるシーン	美味しそうなそばだと想像できるから
後半・男Bの場面	④そば屋の登場	そば屋の屋台をかつぐしぐさ
	⑤男Bのそばができるのを待っているシーン	でき上がるのを待ち遠しそうにしている様子
	⑥男Bのそばができるのを待っているシーン	そばができ上がるのが遅いことがおもしろい
	⑦男Bが割り箸でなく割ってある箸をほめるシーン	ほめるときのしぐさ
	⑧男Bの箸が汚いシーン 「俺の前、だれか食ってきやしねえか。そんなことありませんったって、おめえ、ねぎがぶら下がってんだよ。拭いちゃ、わかりやしねえんだよな。」	箸が汚いことを発見したときの男Bの様子やその時の一連の発話の内容
	⑨男Bの箸が汚いシーン	男Bのしぐさや表情
	⑩男Bがそばを食べてすぐに吐き出したシーン	男Bのしぐさ
	⑪男Bがそばを食べた後すぐに吐き出す音	男Bのそばを吐き出す音声
	⑫男Bがそばを食べたあとのセリフ 「太かったねえ、うどんじゃねえの? そば?」	この発話で、うどんとそばのギャップがわかった
	⑬男Bのセリフ 「こういう太いそばのほうが腰がしっかりしてんだよ。」	男Bが、細いそばでなくうどんみたいな太いそばがいいと言ったこと
	⑭男Bのセリフ 「(麩が) とけてなくなっちゃった。」	男Bの表情
	⑮男Bのセリフ「まずいな。」	男Bの表情とそばが美味しくないこと
	⑯男Bのセリフ「待ってました。」	男Bの変な声

上記から、「時そば」では、落語家のしぐさや音声により生じる笑いが多いことがわかる(表1中①②④⑤⑦⑨⑩⑪⑭⑯ 10 / 16か所)。この話のオチは、江戸時代の時間の数え方などをよく理解していないとすぐにそのおかしみがわからないオチなので、話の内容よりも落語家のしぐさや音調から生じる笑いが多かったということであるが、もっとも「時そば」という落語はしぐさで笑わせる落語として有名なので、この結果は当然である。

それ以外は、学習者が登場人物の状況や発話の意味を理解した上で笑った場面である(表1中③⑥⑧⑫⑬⑮ 6 / 16か所)。特に、⑥ではそばの出来上がりが遅くて待たされている男Bの状況を笑い、⑧では箸が汚いことを発見した後のセリフの内容と「箸がきたなくても拭いたらわからない」と言って食べ続ける男Bの状況を笑い、⑮では「まずいそば」を食べる男Bの状況を笑うのであるが、これらからは、学習者が男Bの間抜けぶりを理解

して傍観者として笑っていることがわかる。また、⑥⑫⑬の笑いは、前半部分の男Aと後半部分の男Bとの状況場面の対比を理解した上で生じた笑いである。この状況場面の対比によるおかしみの理解は、所要時間が12分10秒の「時そば」の前半（男Aの場面）は6分30秒、後半（男Bの場面）は5分40秒と後半部分が短いにもかかわらず、後半部分に笑いの場面が多かったことから推測することができる。

活動後に実施したアンケート（回答者5人）では、「〈時そば〉のどこがおもしろいか」という質問に、落語家の表情やしぐさという回答が4人、「男Bが払いすぎた」というオチを理解してそれがおもしろかったという回答が2人、顔の表情やしぐさはおもしろいが話があまりわからなかったという回答が1人であった。オチがおもしろいと回答した学習者の1人が「授業中、日本文化について新しいことを学んだ。落語について全然知らなかった。面白かった。初めて落語を見た。難しかったけど、時そばの落ちを分かった。うれしかった。

た。落語の日本語が難しい。落語家のgestureはとても面白かった。新しい言葉を学んだ。」という感想を寄せた。落語の日本語が難しいという感想からは、今後はさらに用語の説明に時間を使うなど、今回の授業構成の問題点がみえた。しかし、学習者は言葉が難しいとしながらもオチを理解すると嬉しいと感じることがわかった。これにより、大いに学習の動機付けや意欲を引き出す指導ができると思われる。

3. 5. 2 学習者の笑いが生じた場面の分析 —「ちりとてちん」の場合

DVD視聴中に学習者の笑いが生じた場面は24か所であった。学習者に笑った理由をインタビューしたところ、落語家のしぐさ、表情、声調という回答の他に、発話が意味する内容という回答を得た。以下の表2は、笑いが生じた場面（24か所）の中で、学習者が発話の内容を理解して笑いが生じた場面（14か所）を取り出し、その笑いの理由を記したものである。

表2 「ちりとてちん」視聴で笑いの生じた場面と学習者の笑いの理由

（表中の番号①～⑭は、話の進行に沿って時間軸でつけた。）

	笑いの生じた場面	学習者インタビュー
前半・金さんの場面	①金さん「ああ、どうも、こんにちは。」	金さんのしぐさと言い方で金さんの性格（お世辞が上手な人）がわかった
	②金さん「おととととと…うまい。」 ご隠居「あなたまだ飲んでないじゃないですか。」	金さんが飲む前に「うまい」と言ったこと
	③金さん「この魚、目も鼻もない。」	刺身についての発話
	④金さん「(食べるしぐさ) うまいね、これね。」 ご隠居「なに言ってるのかわかりませんよ、あなた。」	二人のやりとり
	⑤金さん「あたくしですね、お米のおまんまがあるってことは話にうかがってますけどね。」	(学習者は笑った理由をよくわからないと回答した)
後半・六さんの場面	⑥六さん「どうせ、本物じゃねえでしょ」	「どうせ、本物じゃない」と言ったこと
	⑦六さん「まあ、これならまあまあですかね。」	おいしい酒を「まあまあ」と言ったこと
	⑧六さん「ああ、ああ、あのね。」	六さんが知ったかぶりをしたこと
	⑨ご隠居から雇用人のキヨへのセリフ 「なんにも言わなくていいから。」	ご隠居が六さんをだまそうとしていることがわかった

後半・ 六さんの 場面	⑩六さん「あっ、そう、これね、なんか赤くてトロツとした水気の」	六さんが知ったかぶりをしたこと
	⑪ご隠居「うちはだれも食べないですからね。」	ご隠居が「(ちりとてちん…本当は腐った豆腐を)だれも食べない」と言ったこと
	⑫六さん「でしょう。そうなんですよ。あれはにおいで食うもんですからね。」	だまされていることを知らずに知ったかぶりをする六さんがおもしろい
	⑬六さん「で、これをですよ、端のほうから流し込むように……」	ちりとてちんを苦しそうに食べる六さんがおもしろい
	⑭六さん「ヒイヒイ……ヒイヒイ……ああ……うまかった。」	六さんがちりとてちんを「うまかった」と言ったこと

上記から、「ちりとてちん」では、落語家のしぐさや音声により生じる笑いに加えて、話の内容を理解して会話のやりとりをおかしかることが多かったことが観察できた(14/24か所)。

表2中⑤の金さんのセリフに表れる「あたくしですね、〇〇があるってことは話にうかがってますけどね」は〇〇の部分に、灘の生一本、鯛のおさしみ、鰻のかばやき、お米のおまんまが言い変えられて、この話の中で4回繰り返される。学習者がこのセリフの4度目で笑ったということはセリフの内容や音声よりもその繰返しによって生じた笑いであると思われ、これはベルゲソン(2012:87)の主張する言葉の繰返しによる笑いであると分析する。また、表2中⑨⑩⑪⑫⑬⑭では、学習者がご隠居の立場になって六さんを笑うといった登場人物との笑いの共感も観察された。特に、⑬⑭では学習者の大きな笑いが観察された。これらのことから、学習者が「ちりとてちん」のことばを理解しながら内容を理解し鑑賞できたということがわかる。さらに、「ちりとてちん」の所要時間は18分10秒で、前半部分(金さんの場面)と後半部分(六さんの場面)はどちらも約9分ずつであるが、後半部分の笑いのほうが多いことから前半部分と後半部分の状況場面の対比によるおかしみも理解していると思われる。

活動後に実施したアンケートでは、「〈ちりとてちん〉のどこがおもしろいか」という質問に、落語家の表情、しぐさ、話し方という回答(3人)の他に、六さんがおもしろい(2人)、ご隠居がおもしろい(1人)という回答があった。また、最後がおもしろい“ちょうどとうふのくさった…”(1人)という回答もあり、この学習者は落語のオチの構造を理解している可能性をうかがわせた。

4. 観察のまとめ

今回の観察から、本稿2.3(Deneire1995)において述べられているように、落語を使った教室活動では、確かにリラックスした雰囲気をつくることができた。そして、学習者が日本文化のひとつである落語の笑いを理解しながら、それを日本語・日本文化の習得に活かすことができるとわかった。

Deneire(1995:294)は、笑いを使った授業は上級者向きであると主張しているが、落語の笑いの種類を選べば、中級クラスの学習者も対象とすることができる。また、Deneire(1995:294)は、笑いはすでに導入したものがまだ身につけていない時の説明と強化を目的に使うべきであると主張するが、新しいことばや知識を導入するときに使うことの可能性も否定できないように思われる。落語はストーリーがあるので、その中で使われる文型や慣

用表現、敬語表現などをストーリーの状況とあわせて理解しやすく、活動後のアンケートでも、「新しい言葉や敬語の勉強になる」という感想があった。「既習項目の説明と強化」(Deneire1995:294)という点において、ここで使用した落語DVDは所要時間が短いので、視聴の繰返しも学習者の負担とは思われないと思われる。また、発展活動として何度か繰り返し聞くことで、日本語音声のリズムやスピード、間に慣れる練習もできる。スクリプトにおいても同様に、そのストーリーの内容やオチを理解しようと読み直すことが、知識を記憶に残す手助けとなりうると考えられる。

5. 今後の課題

中級学習者を対象とした日本語授業における落語教材の学習効果について、さらに教室活動を継続して観察、分析を行うことを今後の課題とする。

参考文献

- 大島希巳江 (2006) 『日本の笑いと世界のユーモア—異文化コミュニケーションの観点から』 世界思想社
- ベルグソン (2012) 『笑い』 第81刷. 岩波文庫
- Deneire, Marc. (1995) "Humor and foreign language teaching", *HUMOR8-3 : International Journal of Humor Research*, 8-3, pp.285-298. MOUTON DE GRUYTER

使用した書籍・DVD

- 麻生芳伸編 『落語百選 夏』 (2008) ちくま文庫
- 『モリエール全集2』 (1973) 中央公論社
- 落語DVD 「落語をもっとたのしもう 下巻」 NHK PCBE-51650
- 落語DVD 「落語がいっぱい その三」 TDK TDBT-0064